資料2

「安全・安心まちづくり」をいかに進めるか?

関西学院大学 総合政策学部
室崎　益輝

問題の所在(1)

- なぜ「安全・安心まちづくり」なのか?

  いままでの都市防災対策の到達点の評価(反省を含む)をしっかりしないと、単なる言葉の遊びに終わってしまう

  その狙いは、総合化あるいはマネージメント化?

  対象の総合化、担い手の総合化、空間の総合化・・「言うは易く行うは難し」

問題の所在(2)

- 今までの都市防災対策を如何に評価するか?

  高潮や河川氾濫あるいは強風大火などについては大きな成果をあげている

  治水治山については、総合治水対策などの優れた計画理論を生みだしている

  しかし、巨大リスクや新規リスクについては、対策の体系性も実行性も欠いた状態のまま今日に至っている

戦後の防災まちづくり関連の制度・事業

- 消防法、水防法、建築基準法(～1950)の制定⇒新都市計画法(1968)の制定と改正⇒密集法(1997)
- 建築防火帯(1952)⇒市街地改造・防災建築街区(1961)⇒市街地再開発(1969)
- 江東防災拠点(1969)・広域避難地(1971)⇒都市防火総プロ(1977～)⇒都市防災不燃化(1980)⇒都市防災構造化(1997)
- 過密住宅地区更新(1976)、住環境整備モデル、・・・⇒密集住宅市街地整備(1994)、都市再生プロ(2001)

問題の所在(3)

- 今の都市防災対策に何が欠けているのか?

  総合性、戦略性、持続性のいずれもが欠けている　その結果として実行性や実効性が乏しいものになっている

  都市防災構造化事業や密集市街地再生戦略はなぜ進まないのか? その原因が明らかにならないと前には進まない

  財源の壁、制度の壁、運動の壁、そしてなによりも意識や意欲の壁

防災まちづくりの科学技術の現状

- 被害想定の曖昧さ・・想定が曖昧ゆえに対策も曖昧に成る　ex.地震火災被害の予測など
- デザイン論の欠落・・分析技術はあっても、設計技術はない　質を重視する発想
- 安価な地域減災装備が未開発・・空間と管理を補う設備が欠けている　ex.地域ドレンチャーなど

計画論の課題

- 安全な都市の目標を明確にする
  - ・目標とする安全都市の姿がみえない・・日常性との融合、リスク相互の包摂
  - ・克服をはかるべきリスク、必要とされる性能が曖昧になっている
- 有機的で総合的な対策の体系をつくる
- 対策の効果を評価するシステムをつくる
  - ・科学的な被害想定と防災対策とのフィードバックが欠かせない

運動論の課題

- 市民の主体的な関わりを引き出す
  - コミュニティ防災論の確立・・ハードとソフトの融合、大きな公共と小さな公共の融合など
  - 意識啓発の取り組み・・ワークショップやまちづくり教育
- 地域の変容や行動の運動法則を踏まえる
  - 新陳代謝のエネルギーを引き出す
  - 建蔽率などの緩和によるインセンティブ

制度論の課題

- まちづくりや密集整備関連の法や事業制度のあり方を、たな卸しして根幹から見直す必要がある
  - (1) 総合的で規範的な「減災まちづくり法　(仮称)」を制定して、全体像をあきらかにする
  - (2) 弾力的で包括的な事業手法の充実をはかる‥メニュー方式･抱き合わせ方式からの脱却、まちづくり総合支援事業の拡充、コミュニティ活動などのソフトな対策との融合
  - (3) コストパーフォーマンスを考慮した思い切った財政支援をはかる